

# 伊豆の国市 情報通信基盤整備構想

平成20年3月

伊豆の国市

# 伊豆の国市 情報通信基盤整備構想

## 1 情報通信基盤整備の目的

情報通信技術の発展はめざましく、インターネットや携帯電話の普及により、一層多様化・高度化するなど、住民生活や経済・産業活動に大きな変化をもたらしつつあります。今後、デジタル技術をはじめとする情報通信技術の高度化、通信データの大容量化はさらに進むことが見込まれます。「いつでも、どこでも、何にでも、誰でも」利活用できる情報通信基盤を整備し、産業、教育、防災、行政等さまざまな分野において活用を進め住民の誰もが情報通信技術の便利さを実感できる地域づくりを目指します。

## 2 ブロードバンド整備の意義と必要性

ブロードバンド整備を行うことは、インターネット上に無数に存在する情報の入手・検索・共有・保存・加工といった様々なサービスの快適な利用や、地域からの積極的な情報発信のために必要不可欠となっており、さらに、ブロードバンドを利用することで、市民生活・地域経済・行政のあらゆる面において多様な効果・効用を期待できるといった大きな意義を有しています。

また、特に条件不利地域等のブロードバンドが未整備の地域においてその整備を進めることは、社会問題である地域格差・地理的デジタル・ディバイドを早期に解消する観点からも、高い必要性があります。

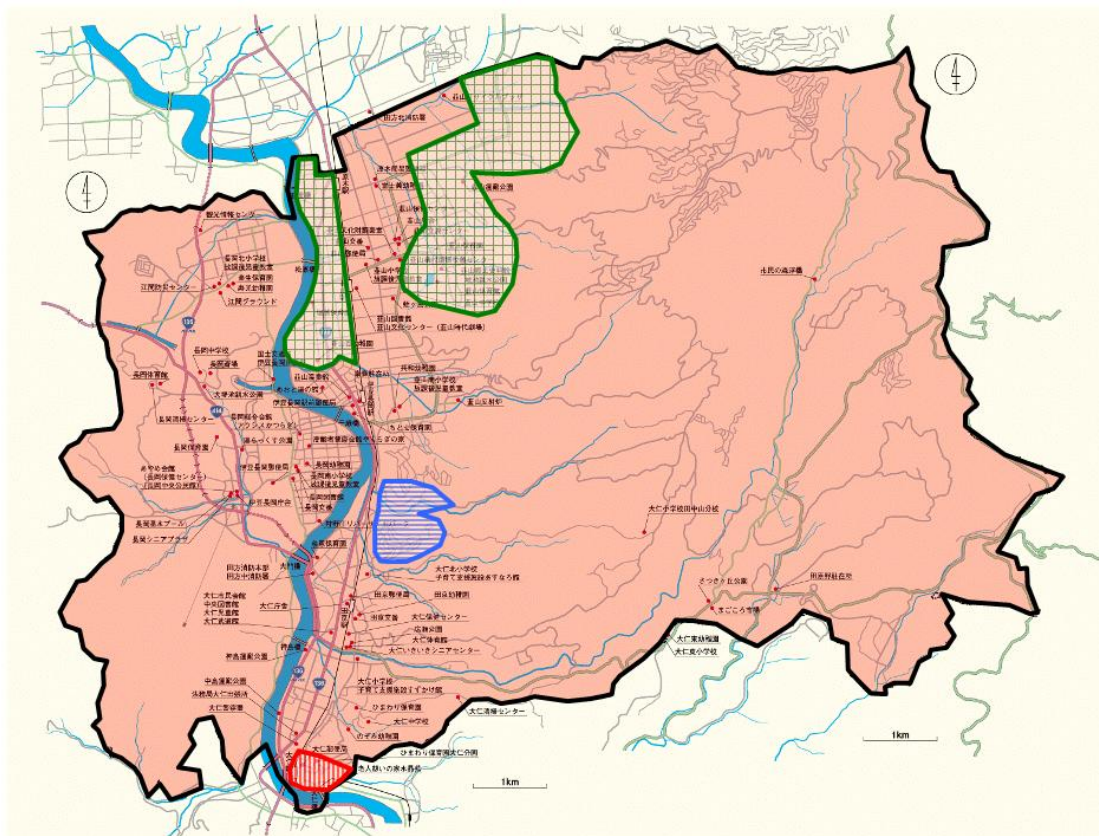
## 3 国、県の動向





国においては、IT戦略の次の段階として「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」使えるユビキタスネットワーク社会を実現させるためにIT基盤整備を行う企業や市町村に対して支援策を講じる。

また、県においても「しずおか光ファイバ整備構想」を策定し2011年までに静岡県内のブロードバンド世帯カバー率100%を目標とし、条件不利地域での基盤整備並びに利活用促進のための支援策を行うとしています。

## 4 地域情報通信基盤整備構想の概要

### (1) 情報通信基盤の現状



-  ADSL サービス利用可能地域
-  CATV インターネット利用可能地域
-  ブロードバンド未整備地域
-  光ファイバーインターネット利用可能地域

### ADSL の状況

現在伊豆の国市には、5つのNTT局舎がありすべての局舎においてADSLが可能となっている。しかし、大仁局舎では局舎から家庭までの回線の間の一部光ケーブルを使用しているため、ADSLが利用できない地域が存在しADSLの世帯カバー率は96%となっている。

## ケーブルテレビの状況

旧韮山地区の一部でケーブルテレビが利用できる状況にあり、平成 19 年度から大仁地区の一部でもケーブルテレビのサービスが開始された。また、ケーブルテレビ加入者は、ケーブルテレビインターネットも利用できる状況にある。

## 光ファイバの状況

企業向けの光ファイバの通信サービスは、市全域可能だが、一般家庭向けとなるとNTT西日本ではサービスの提供されていない。韮山地区の一部でケーブルテレビ事業者により光ファイバの通信サービスを開始した。今後ケーブルテレビのサービス提供エリアで順次エリアを拡張して行く。

## (2) 情報通信基盤の課題

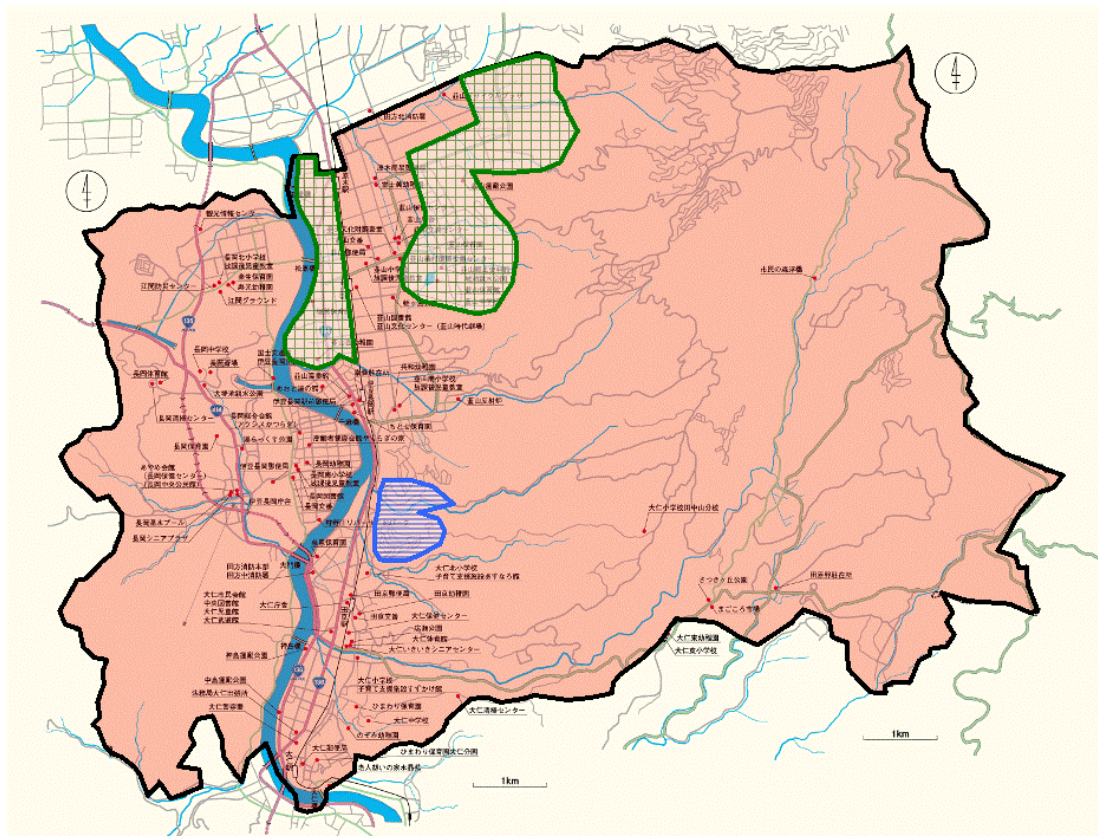
- ・ 光ファイバによる事業用通信サービスは、市内全域地域で利用できる状況にあるが、一般家庭向けサービスは、静岡県内でも採算性が確保される都市部に限られ伊豆の国市などの条件不利地には、民間事業者だけでは整備しない。
- ・ 民間事業者が光ファイバを整備するには利用者の確保が必要になる。
- ・ 市内のすべての地域をカバーするためには多額の費用が必要となる。




## (3) 情報通信基盤整備に向けての対応

- ・ 情報通信基盤の整備は、整備後の維持管理まで考慮すると通信事業者が主導となって整備を進める。
- ・ 条件不利地について伊豆の国市としても、県の支援を受けながら通信事業者並びに地域が連携して整備を進める。
- ・ 地域の需要喚起や利活用の促進に繋がるアプリケーションの導入や啓発活動に取り組む。

## 5 対象地域

伊豆の国市全域を対象とする。



-  光ファイバインターネット利用可能地域
-  最優先に整備する地域
-  未整備地域解消後整備を進める区域

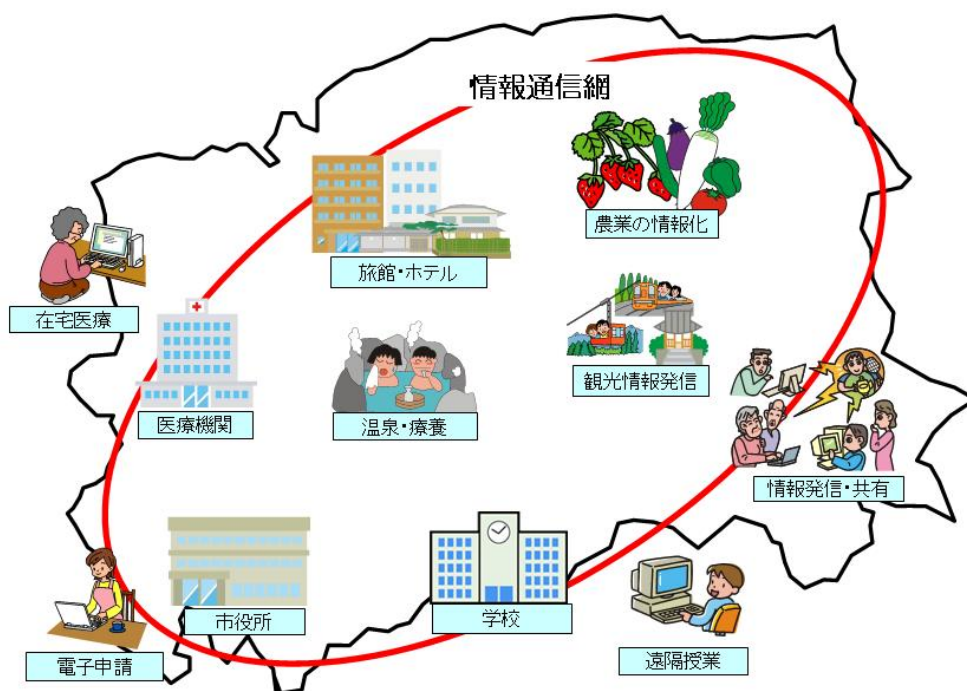
市内全域を対象とするが、まずブロードバンド未整備地域を最優先に整備し、ブロードバンドゼロ地域を解消する。その後最新技術の動向を見極めながら地域と調整を進め順序整備を進める。

# 高速通信基盤の利活用と促進

## 1 高速通信ネットワークの利活用の促進

ブロードバンドの整備が実現したとしても、そのネットワークが地域において有効に活用されなければ、整備したこと自体に意味がなくなってしまう。ブロードバンドの整備が実現した後も継続的にそのネットワークの利用した方策を考えていく必要がある。また、ブロードバンドの利活用により、社会生活における様々な課題を解決することができるが、このことを広く市民に理解してもらい、そのメリットを市民にしっかり認識されるためには、市や民間事業者等による啓蒙への取り組みブロードバンドの利活用を促進し、地域の情報化を進め、豊かな市民生活と地域振興の実現を図る。

### 情報通信基盤整備による情報の利活用



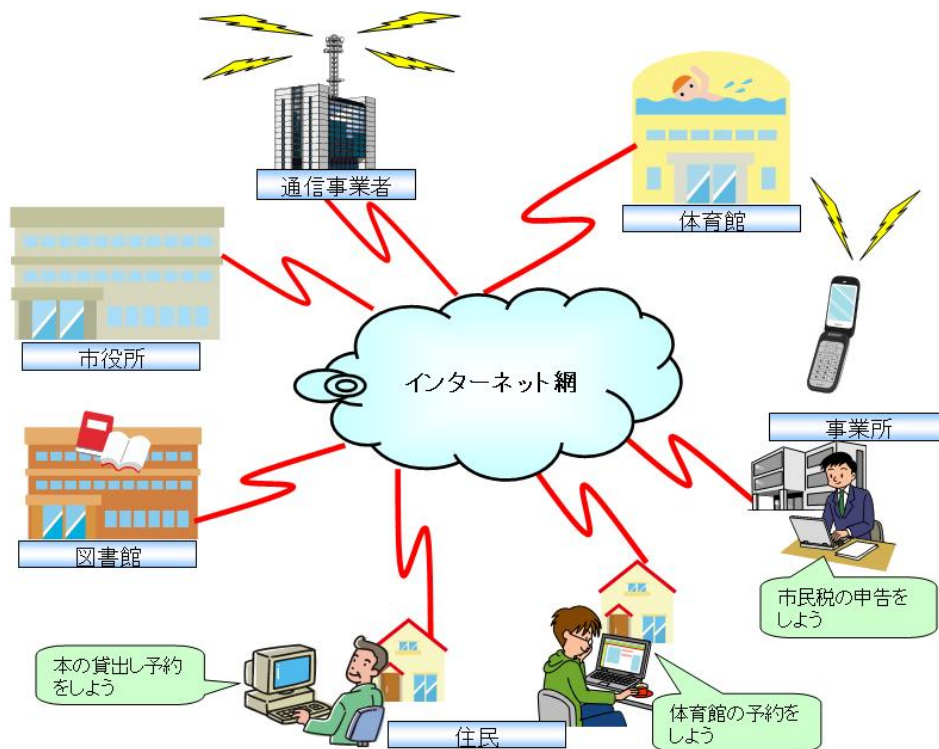
ブロードバンドが整備されることにより医療・福祉、観光・地場産業、教育等とあらゆる分野での利活用が考えられる。

## 2 分野別のネットワーク利活用

### (1) 行政サービス分野

○電子申請等の手続、施設予約、図書貸出、税の申告手続、電子入札手続などの行政手続のオンラインサービスを充実する。

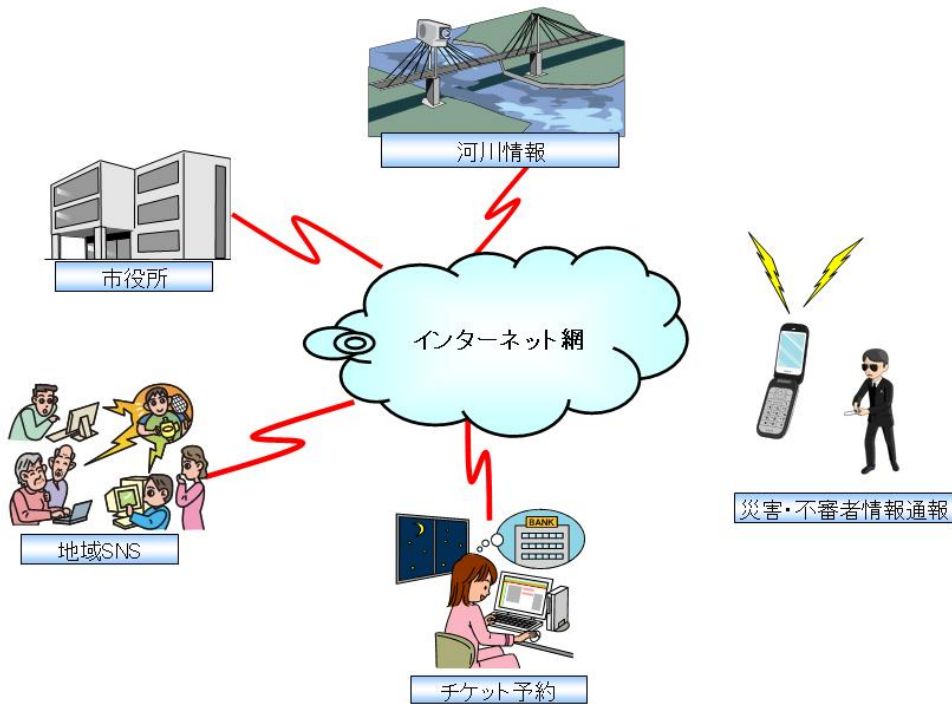
○GISを利用した地図情報、施設案内等の行政情報の提供を進める。





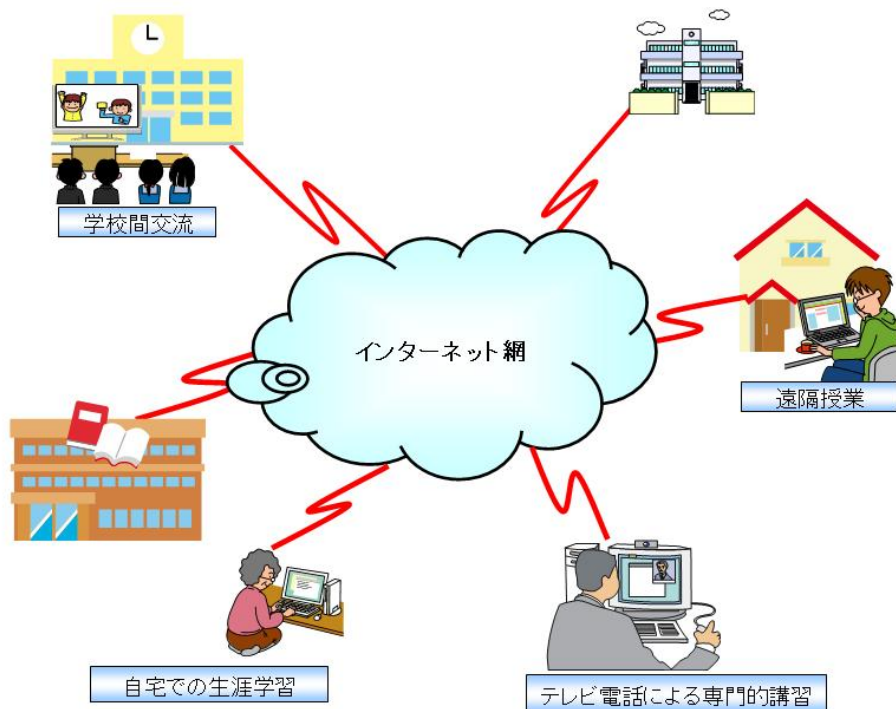
## (2) 住民生活の情報化

- 防災・災害対策ではホームページでの防災情報提供。
- 治安・防犯対策では不審者情報などの連絡通報システムの活用することにより、安全・安心な生活を確保する
- インターネット掲示板を活用したコミュニティ形成を図ることで、住民の行政参加や交流を進める。
- 日用品等の購入や配達の依頼、宿泊施設やチケット等の予約がより便利に利用できる



### (3) 教育・文化分野

- インターネットを通じて、学習教材や資料の入手、遠隔地の他校の生徒との間で双方向の映像通信によるテレビ会議方式の授業を行うことによって一体感のある授業を行い学校間の映像・音声の相互交換による交流を実現する。
- 社会教育においても、動画の伝送やテレビ電話等を用いて、英会話や資格講座等の専門的なプログラムを受講することができる。



#### (4) 医療・健康・福祉分野

- ブロードバンドを活用することによって、市内の病院で撮像したレントゲン画像を都市部の中核病院へ送信し、画像を見ながら診療所の医師が中核病院の専門医から専門性の高いアドバイスを受けたり、患者がテレビ画面等で応対したりしながら中核病院の医師に相談することができるようになります。
- 一人暮らしの高齢者に対する介護や健康管理を効果的・効率的に実施するため、センサーによる見守りやテレビ電話等を通じた健康相談ができるようになります。

